



長谷川良雄の水彩画

古都の田舎を描く

Y. HASEGAWA

2017年9月2日～12月10日(土・日・祝開館)

※期間中、土・日・祝のみ開館します。ご注意ください。

開館時間：午前10時～午後4時30分(入館は4時まで)

入館料：800円(中・高生500円)

主催：長谷川 歴史・文化・交流の家

協力：京都工芸繊維大学(美術工芸資料館)、NPO法人古材文化の会

後援：京都府教育委員会、京都市、京都市観光協会、京都新聞

朝日新聞京都総局、毎日新聞京都支局、京都リビング新聞

NHK京都放送局、京都放送(KBS)

「加茂川堤の木」1910(明治43)年

国の登録有形文化財・京都市「市民が残したい建物」に認定

長谷川 歴史・文化・交流の家

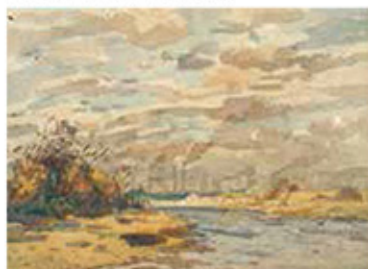
Hasegawa Home of History, Culture, and Exchange



「竹田街道の朝」1904(明治37)年



「下鴨」1907(明治40)年頃



「煙突」1912(明治45)年



「福荷山」1914(大正3)年



「森と野小屋」1926(大正15)年頃

長谷川良雄の水彩画 古都の田舎を描く

長谷川良雄は明治17(1884)年6月、京都府紀伊郡東九条村(本展会場である長谷川家住宅)で生まれました。地元の小学校から京都府立尋常中学校(現在の府立鳥羽高校)に進学。幼少期から絵を描くことを好みましたが、在学中に使った美術の教科書に出てきた浅井忠の絵に強く惹かれました。その浅井が、明治35(1902)年に新設される京都高等工芸学校の教授として迎えらることを知って、一も二もなくその図案科に入学したのです。ここは図案の基礎やその応用を学ぶところですが、浅井は、対象を正確にとらえるためにはまず写生の重要性を説き、良雄はあこがれの先生による写生(水彩画)の指導を受けることができたのです。

生家は地元の大地主であったこと、また生来身体があまり丈夫でなかったことから、画家や工芸家を職業とする考えは淡く、趣味で水彩を楽しみ、気ままに展覧会に出品するといった人生でした。そしてその展覧会では出品作に対して浅井忠の後継者とまで評されることもあって、充実した絵三昧の生涯を送りました。

今回は長谷川家に残された水彩画の中から、「古都の田舎を描く」と題して35点ほど展覧します。彼は、近代化がすすむ町中よりは静かな自然のたたずまいを好みました。今もその面影を残しているところ、またすっかり失われてしまったところなど、当時の京洛のあちこちの眺めを描き残しています。水彩(みずえ)——にじみやぼかし——の魅力とともにその面影探しをお楽しみください。

なお、長谷川家が所蔵する浅井忠の水彩、図案科で学んだことの成果を示す関連の資料も若干ですが併せてご覧いただきます。 ※会期中展示替えを行います。

講演会のご案内

- 9月16日(土) 午後3～4時
「浅井忠と水彩画」並木誠士(京都工芸繊維大学教授)
- 10月28日(土) 午後3～4時
「長谷川良雄の水彩画」平野重光(美術史家)

【交通案内】

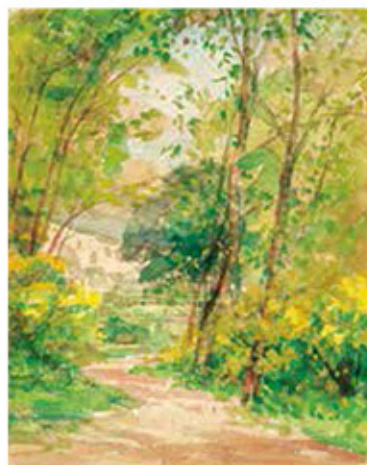
- バスをご利用の場合
京都駅(烏丸口)から市バス81番・特81番(中書島・横大路車庫行)で「札ノ辻」下車、徒歩3分(竹田街道札ノ辻一筋下り、左折突き当たり)
- 地下鉄をご利用の場合(地図参照)
烏丸線「十条駅」下車4番出口、徒歩7分
烏丸線「九条駅」下車4番出口、徒歩10分
- タクシーをご利用の場合
京都駅(八条口)から竹田街道札ノ辻一筋下り、左折突き当たり
- 車をご利用の場合
駐車場(東門)に有。駐車台数に限りがありますのでご利用希望の際は必ず事前にご連絡下さい。なるべく公共の交通機関をご利用願います。



写生に出かける長谷川、23歳頃



「芋島」1910(明治43)年



「井手の山吹」1933(昭和8)年頃



【お問い合わせ】

長谷川 歴史・文化・交流の家
Hasegawa Home of History, Culture, and Exchange

〒601-8024 京都市南区東九条東札辻町5
Tel & Fax 075-606-1956
<http://hasegawa.okoshi-yasu.net/index.htm>